

津 島 市 市 政 報 告 会 （ 南 小 学 校 区 開 催 ） 会 議 録

日程 令和6年6月29日（土）

午前10時～11時7分

会場 南小学校区コミュニティセンター

1 開催対象

南小学校区にお住まいの方（参加者：37人）

2 内容

市長説明（10：00～10：43）

質疑応答（10：43～11：07）

3 市長説明

テーマ「津島市の取り組みについて『まちづくり、子育て支援、そして定住へ』
つしま未来創造予算を中心に」

4 質疑応答（要旨）及び回答

（1）市民病院の産婦人科設置について

意見

市民病院には産婦人科がない。だから津島で赤ちゃんが産めないのでもわざわざ海南病院まで行かなければならないという声が聞こえており、ぜひ産婦人科が欲しい。これだけ素晴らしい施策を行う子育てのまちなのに市民病院に産婦人科がないのは一番大きなミスだと思う。ぜひ産婦人科の先生を呼んでいただきたいと思っている。海南病院ではアクセスに金もかかり連れていくご家族の方も大変だという声がある。住み続けたいのに産婦人科がないことが転出の要因となっはいけないので、津島に住み続けていただくためにもぜひお願いしたい。

市長

市民病院には以前産婦人科があったが産科を無くして婦人科とした。無くさざるを得なかった経緯があり苦渋の決断だった。理由は市民病院への医師の派遣が難しいからということによる。名古屋大学に伺った際に聞いたのは、産科を創るには常勤の小児科医が2人以上必要だということであった。これは周産期医療として、出産は様々な危険を伴うため多くの医師によって母子ともに守って産んでいただきたいという流れである。今後について進めようとしていることとしてお聞きしていることによると、もっと大きなセンターでもって出産をするというのが出産時のリスクをさらに軽減するというものだとしている。ゆえに産科設置はハードルが高く今ご質問に対し良い返事はできない。市民病院クラスの病院に産科を今のすぐに設置というのは難しいのではないかと。医師を派遣する大学も派遣先の病院をまとめていくことで完結していただこうという流れにな

っている。津島には市民病院以外にも民営の産婦人科がいくつかあり、民営の産婦人科がない自治体も多くある中で、そちらをご利用いただくとお答えせざるを得ない。あれば良いというお気持ちはよくわかるがトータルで考えるとそういう結論にならざるを得ない。

(2) 消滅可能性自治体及び市民病院について

意見

二つ質問がある。

一つは、津島市が消滅可能性自治体と指摘されたことについて、2014年に公表された際は968自治体であったが、津島市を含め多くの自治体の努力により2024年今年に公表された際に236ほどの自治体は改善の結果消滅可能性自治体から脱していた。市長のお話を伺うとこのことに心配はいらぬとおっしゃるその危機感のなさに非常に心配をするが、消滅可能性自治体については本来原因があるわけで、何が原因なのか、また原因を究明しデータ化し、どのように改善していくのか伺いたい。

もう一つは市民病院について、市長は設置者として市民病院の設置意義・設置目的をどうお考えか、本年度から新しい院長になったが管理者へどのように指示したのか具体的にお聞かせいただきたい。先ほどの方の質問にもあったが、津島市はこの地域では圧倒的に民間の産婦人科があるわけで、ここからの要望として市民病院を周産期医療の拠点としたいとの相談を受け、産婦人科、小児科へ派遣をいただいたということがあった。今は市民病院には小児科もなく産婦人科もないということで、どうしてそうなったのか。一方で、子育てを施策の一番と位置付けているのに市民病院に小児科がないというのは矛盾している。これを改善しなおかつ産婦人科を整えるというのが王道だと思っているがこれを断念したということなら子育てを一番とするのはまったくおかしな話である。以上2点お答えをいただきたい。

市長

消滅可能性自治体について、こちらは4月に発表されたものだが、その以前から津島市は徹底的な行財政改革を推進し、昨年度より全国トップクラスの子育て支援等対策をしていた。こうした政策を打つことが対応に対するメッセージであり、口でどうこう言ったところでそれは何にもならない。施策を一つ一つやっていくこと、まさに今進めていることを継続していくことが大事であると考えている。

消滅可能性自治体については、一つの推計値をもってのものであり、実際のデータベースをもってしっかりと分析した中で複数のデータをもって話をするのが正論ではないだろうか。現実には20代30代の人口減少はあるが以前と比較すると改善傾向にある。人口減少は二つのファクターがあり、一つは高齢者が多いという人口ピラミッド上起きている自然減によるものである。一方でもう一つのファクターである社会減は減少傾向にあり、このために市に魅力のある要素をつけることで対応していく。

市民病院について、おっしゃることは理解できなくもないが、一つ申し上げると、小

児科は存在している。ただし常勤の医師が不在であると訂正したい。また産婦人科について婦人科はあるが、産科が存在しない。産科には周産期医療の考えにより多くの医師が必要な中で、市民病院に医師を派遣してもらい海部津島の中でやっていけるのかというのは、現在の人口動態などを含めると今そこにシフトするのは無理があるということだろうと思う。先ほどもお話しした通り津島市にはお産をしていただける民間の医院が複数あり、条件の異なる中山間地域とは立地が違うものであり、そうした選択をせざるを得ない。

市民病院は地域に必要とされる地域になくてはならない病院と考えている。一方でもう一つ大事なことは持続可能ということである。持続可能な中で市民・地域の皆さんに必要とされる病院としていくことが大事である。前神谷院長にも現川井院長にも話していることは、地域に必要とされる病院ということが大事であるということ。持続可能なためには安定的な経営が必要であり、それを無視してやることはできないので、そうしたこともトータルで判断させていただくことが必要である。引続き病院を頑張っていきたいと思っている。

(3) ほっとルームについて

意見

今年度からほっとルーム（校内教育支援センター）が暁中学校、天王中学校に出来て、教室に入れなかった子どものための部屋が全中学校に出来た。私の子どもも登校はできるが教室に入れなかったため、一時間で帰宅させられていた中で通うことができるようになった。先日暁中学校のほっとルームを見させていただいたが、天王中学校とあまりに環境が違いすぎると感じた。天王中学校はコンピュータ室がほっとルームになっており、広い所に一人でいる。せまい所だと空調がない。一度市長にはほっとルームの様子を見ていただきたい。

市長

ほっとルームの校内設置は、生涯学習センター等ではなく学校の中で支援をするということで進めたものである。児童科学館内しか現場を見られていないので、各中学校に設置したところも順番に現場を見させていただく。

意見

また、ほっとルームは各小学校の設置へ向けて考えていただきたい。

市長

しばらく時間はかかるが、運営の関係も差があってはいけないのでしっかり教育の方でも対応すると思われるので、ご意見は頭に入れておく。

(4) 地域連携について

意見

消滅可能性自治体について、改善した自治体は地域連携をしっかりと行った。市長の

お話を伺うと心配になったのは、周辺自治体を出し抜いてやろうというような意識が強いのではないかと。本来一つの自治体でこんな大きな問題は解決できるようなものではない。できれば他自治体と連携し津島市だけが消滅可能性自治体となったことをしっかり反省し、これだけ努力しているのにどうしてこうなったのか全市を挙げて考えていただきたい。仕方ないという話ではなく人口減少は人口減少としてとらえられ、政策的には敗北したということ。ここを原点にとらえ巻き返しを行っていただきたい。ぜひ市長の連携に対する姿勢を伺いたい。また病院には設立意義がありそれを大事にしてほしい。

市長

連携が大切なのはそのとおりである。病院についても海部医療圏という枠組みがあり、その中で海南病院、津島市民病院、あま市民病院が一緒になって役割分担を含めながらどうやって連携していくかということが今さらに問われている。市民病院だけ飛び抜けるという話ではなく、それぞれの役割をしっかりとやれば海部医療圏の中で患者さんのためになる医療ができるのではないかと。市民病院だけに何かを設置するというのはまさに連携と矛盾する話である。海部医療圏でやりましょうということで連携と話し合いの中で医療・介護・福祉すべてのことを高齢化社会の中でどうやってこの地域がさらに皆さんに対してサービスを提供できるのか、それが皆さん一人一人へのメッセージであると私は思っている。もちろん海部津島で一体になって津島だけが何があるかという話ではなくそれぞれ役割分担はあっていいのではないかと、役割分担をしましょうということを医師会の中で決めて進めている。そのようなことを知っていただくことも大切である。